



上記写真：立野川内浮立（山内町）
表紙写真：立野川内浮立の染色（型染め）の作品

立野川内地区で毎年9月のお彼岸に行われる舞浮立。戊辰戦争の際、従軍した足軽たちが習い覚えた演目が元になったと伝えられている「虎浮立」が見どころです。2022年10月に開催された第5回佐賀県伝承芸能祭では、佐賀県知事賞を受賞されました。表紙は武内町の浦郷京公さんが虎浮立の魅力を伝えたいと作られた染色（型染め）の作品です。



TAKEO

広報武雄 No.223 2024年9月号

CONTENTS

▶特集	武雄から全国へ スポーツで活躍する子どもたち	…04
ニュース	SAGA2024国スポ・全障スポ武雄市協賛企業への感謝状贈呈式 在日本オランダ王国大使館より全権公使が企画展を見学されました	…02
	令和7年度から市税の納め方が変わります	…03
	教育コラムvol.5	…09
	西九州新幹線開業2周年記念イベント TAKEO RED	…12
お知らせ	敬老祝金・特別敬老記念品 年金生活者支援給付金のご案内	…15
	おたんじょうおめでとう	…26

発行・編集／ 武雄市役所 企画部 秘書広報課 ☎0954-23-9121
〒843-8639 佐賀県武雄市武雄町大字昭和12番地10
印刷／ 有限会社 四季の丘印刷



市長だより

「小学5年頃、八幡神社の祇園さんまでに宿題を終わらせなければならなかった」という思い出話を、先日山内町で聞きました。誰にでも小さい頃の夏休み思い出があるのではないのでしょうか。私は、毎年8月16日に行われる大文字焼きを見に行ったのが、小さい頃の夏の思い出です。当時、祖母は銭湯を営んでいたが、銭湯はなかなか休みが取れません。でもその日は必ず、祖母から仕事を抜けて連れていってくれました。風呂焚きのための薪割りや番台など、風呂の手伝いもしたのも良い思い出です。

風呂といえば、私が大事にしていたのが「風呂水の哲学」です。これは二宮尊徳さんの教訓で、「風呂の中に入って、お湯を自分の方に取り込むと、お湯は一瞬こちらに来るようだけれども、体に当たって首向こうに流れていってしまう。反対に向こう側に押せば、向こうにいくようだけれども、向こう側にぶつかってこちらに流れ返ってくる。水を向こうに押やることができるのは人間だけで、それ以外の動物はできない」というもの。自分から取ることはばかりではなく、人を思いやって人々のために譲るのが大切だという教訓です。地区のお祭りや伝統芸能、環境維持などができるのは、皆さんお一人一人のために汗を流してくれているからこそです。もっとも、こんな立派に毎日生きられないのが自分としては悔しいという。なので、風呂につかりながらときどき湯を押し、この言葉を思い出しています。

武雄市長 小松 政